



薬剤部からのおはなし

## 薬と飲食物の飲み合わせについて ②

薬と飲食物の飲み合わせによって起こる相互作用は主に、

- 1) 飲食物がお薬の吸収に影響する。
- 2) 飲食物がお薬の代謝(分解や解毒されること)に影響する。
- 3) 飲食物がお薬の排泄(尿や便などと一緒になって体の外に出ること)に影響する。

などが考えられます。



## ミネラル分を多く含有する食品(牛乳など)と薬の飲み合わせ

ある種の薬剤は、カルシウムなどのミネラル分と薬の成分が結合してしまい、薬の効果が弱まってしまいます。以下の薬を服用中の方は注意してください。骨粗しょう症治療薬のボナロン錠などは、硬度の高いミネラルウォーターでも薬の効果が弱まると言われており、水道水で飲むようにしましょう。牛乳やほかのミネラル分を多く含む飲食物は間隔をあけて摂取することで問題ない場合がほとんどです。薬剤師などに相談してみてください。

- ・ニューキノロン系抗菌薬(クラビット錠[一般名:レボフロキサシン]など)
- ・テトラサイクリン系抗生物質(ミノマイシンカプセル[一般名:ミノサイクリン]など)
- ・セフェム系抗生物質(セフゾンカプセル[一般名:セフジニルカプセル]など)
- ・骨粗しょう症治療薬(ビスホスホネート系)(ボナロン錠[一般名:アレンドロン酸ナトリウム水和物]など)



薬は飲み方を守って正しく飲みましょう！



## チラミン含有食品(チーズ、赤ワイン等)と薬の飲み合わせ

ある種の薬がチラミンという物質の分解を妨害するために体内にチラミンがたまり、顔面の紅潮、発汗、頭痛、動悸、血圧上昇などといった症状が現れることがあります。以下の薬を服用中の方は摂取に注意しましょう。チラミンの含有量の多い食品として上記の他に、アボガド、ヨーグルト、チョコレート、サラミ、ソーセージ、薫製食品などがあげられます。

- ・抗パーキンソン病薬(MAO阻害薬)(エフピー錠[一般名:セレギリン])
- ・消化性潰瘍治療剤(H2遮断薬)(タガメット錠[一般名:シメチジン])
- ・抗結核薬(イスコチン錠[一般名:イソニアジド])
- ・抗うつ薬(三環系抗うつ薬)(トフラニール錠[一般名:イミプラミン])



## ヒスタミン、ヒスチジン含有食品(青魚)と薬の飲み合わせ

- ・抗結核薬(イスコチン錠[一般名:イソニアジド])



青魚には血をサラサラにするEPA(エイコサペンタエン酸)が多く含まれることなどが近年話題となりましたが、他にヒスチジンという物質も多く含んでいます。このヒスチジンは細菌によって分解されアレルギーのもとになるヒスタミンという物質に変化します。

イスコチン錠を服用している方はこのヒスタミンの解毒力が低下していますので、青魚を食べる際は鮮度の良いものを食べ、また、食べ過ぎないようにも気をつけましょう。鮮度の良くないサバを食べてあたってしまった、というのはこのアレルギー反応が関係している場合があります。

### 終わりに

以上のように、せっかく正しく飲んでいる薬でも一緒に摂る飲食物により期待される効果が得られなかったり、思わぬ副作用につながったりする場合があります。お薬をもらうときには、食べ物、飲み物との飲み合わせについても医師または薬剤師に確認するようにしましょう。



### 【地域の皆様へ】

当院は地域と連携し救急患者を夜間、休日または深夜を含む24時間診療することのできる体制を整えております。担当医師は正面玄関掲示にてご確認下さい。